

パリという首都風景の誕生 —フランス大革命から世界大恐慌まで (1789~1933)—

2011年1月29日

上智大学

フランス文学科主催

シンポジウム



LE JARDIN DES TUILERIES ET LA RUE DE RIVOLI. 1ER ET 8EME ARRONDISSEMENTS

Le Jardin des Tuileries et la rue Rivoli (1er et VIIIème arr.). Vue aérienne oblique vers le Nord-Ouest. Grand Palais, Petit Palais, avenue et jardin des Champs-Élysées, Hôtel de la Marine, Pont Alexandre III, Pont de la Concorde, Pont Solférino, Place du Carrousel, rue de Rivoli, place de la Concorde, Notre-Dame-de-l'Assomption, Cour des Comptes, 1955. Photographie de Roger Henrard (1900-1975). Paris, musée Carnavalet.

開会の辞「パリという首都風景の誕生」について

- 1)「ナポレオン帝政・王政復古・七月王政下の首都改造 —『人間喜劇』に見るパリの変貌—」 澤田肇(上智大学・仏文学)
- 2)「地上の世界、地下の世界 —19世紀パリの上下水道整備と土木エンジニア—」 栗田啓子(東京女子大学・経済学史)
- 3)「変容するパリの記憶・風景 —写真的次元で—」 北山研二(成城大学・美学)
- 4)「ガラスのつくった新たな都市景観」 三宅理一(藤女子大学・建築史)
- 5)「世紀末の彫刻狂(スタテュオマニ) —パリの彫像ブーム—」 南明日香(相模女子大学・比較文化)
- 6)「パリの街並みをスキャンする」 五十嵐太郎(東北大学・建築学)

発表者の専門分野とその著書の一部

1) 澤田肇 (仏文学)

- バルザック『バルザック幻想・怪奇小説選集2 アネットと罪人』澤田肇訳、水声社、2007(共訳).
- バルザック『鞠打つ猫の店』、『バルザック芸術／狂気小説選集① 絵画と狂気篇』澤田肇訳、水声社、2010.

2) 栗田啓子 (経済学史)

- 『エンジニア・エコノミスト -フランス公共経済学の成立』東京大学出版会、1992.
- ジュール・デュピュイ『公共事業と経済学』栗田啓子訳、日本経済評論社、2001.

発表者の専門分野とその著書の一部

3) 北山研二(美学)

- フランシス・M・ナウマン、エクトール・オバルク編『マルセル・デュシャン書簡集』北山研二訳、白水社、2009.
- サルヴァドール・ダリ『ダリ著作集 ダリはダリだ』北山研二訳・解説、未知谷、2011.

4) 三宅理一(建築史)

- 『パリのグランド・デザイン ルイ十四世が創った世界都市』中央公論社(中公新書)、2010.
- 『サンゴバン ガラス・テクノロジーが支えた建築のイノベーション』武田ランダムハウスジャパン、2010.

発表者の専門分野とその著書の一部

5) 南明日香(比較文化)

- 『永井荷風のニューヨーク・パリ・東京 造景の言葉』翰林書房、2007.
- 『荷風と明治の都市景観』三省堂、2009.

6) 五十嵐太郎(建築学)

- 『美しい都市・醜い都市 現代景観論』中央公論新社(中公新書ラクレ)、2006.
- 『現代建築に関する16章 空間、時間、そして世界』講談社、2006.

科学研究費補助金プロジェクト

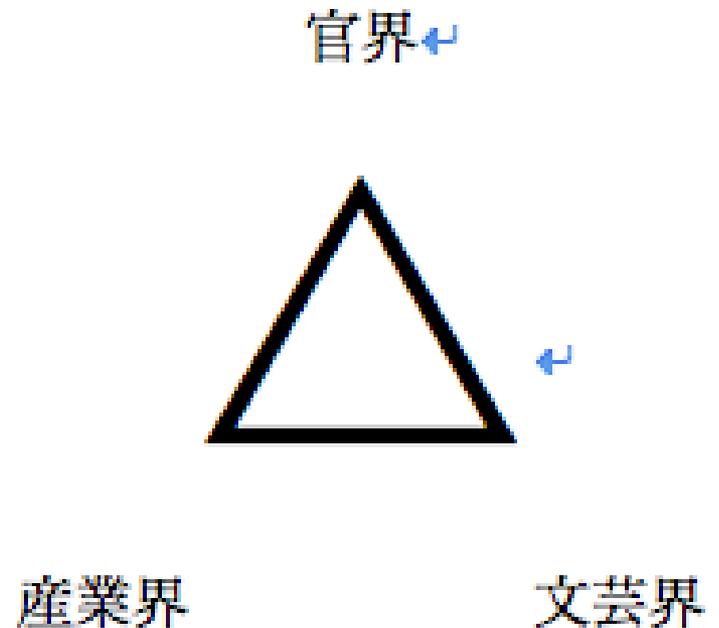
2010～2012年度：研究目的

- 「パリという首都風景の誕生」という観点から、パリがどのようにフランスの、そしてヨーロッパの首都としての外観とイメージを形成していったのかを多角的に問う。
- 検討作業を、建築学・経済学・美学・比較文学・フランス文学それぞれの専門家が、協力して複眼的思考のもとに領域横断的に進める。
- <風景を生み出す欲望のトライアングル>と言うべき、官界、産業界、文芸界の人間たちが交錯する場としてのパリを明らかにする。

近代ヨーロッパを代表する首都の風景 ＜風景を生み出す欲望のトライアングル＞

物語の主角としてのパリ

錯綜する意図の波と無意識の
流れが渦を巻く場
さまざまなヴィジョンと論理、
理想と現実、計算と偶然が
入り交じる地帯

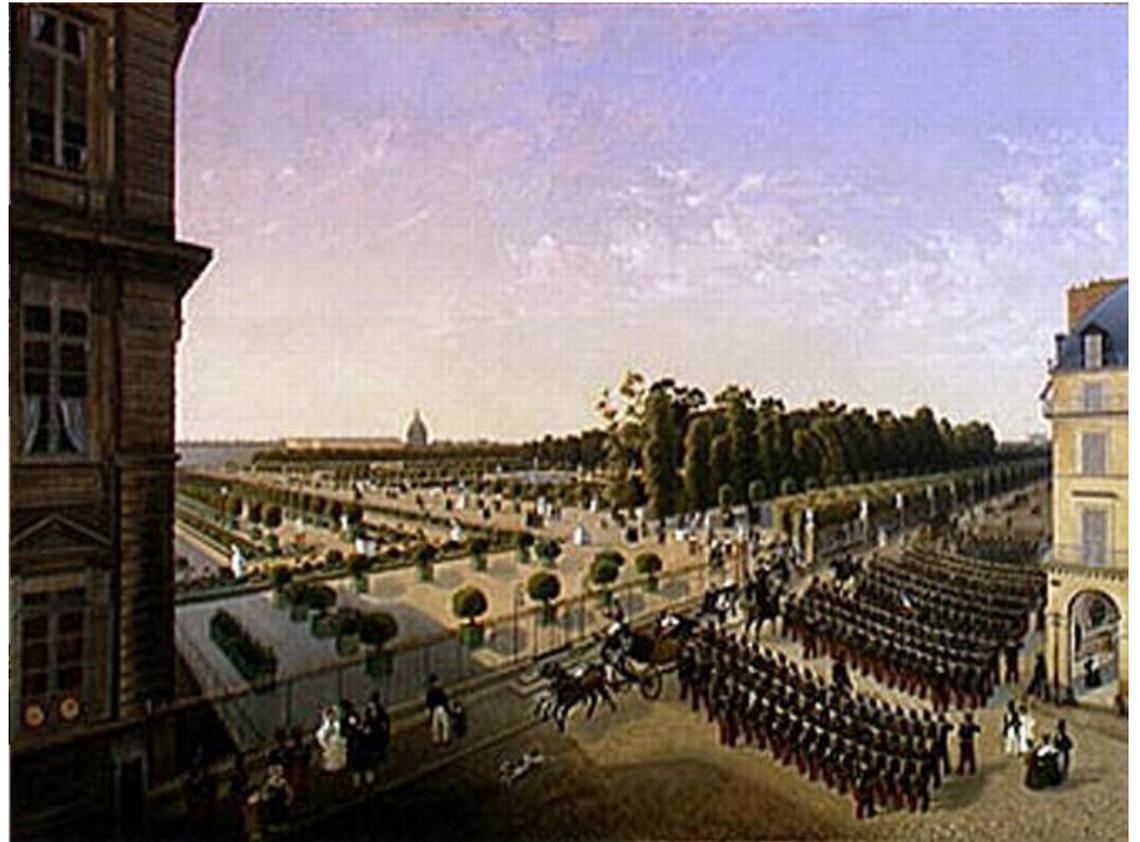


ナポレオン帝政・王政復古・七月王政下の首都改造 —『人間喜劇』に見るパリの変貌—

澤田 肇

文学の中のパリ
近代都市の誕生

シェレ『テュイルリー
公園眺望』(1835)
シャンティイー、
コンデ美術館



19世紀前半のパリは中世と同じか？

無知と怠慢から生まれる

「オスマン以前／オスマン以後」という図式

Au milieu du [xixe siècle](#), Paris se présente à peu près sous le même aspect qu'au [Moyen Âge](#). (Article <Haussmann>, in WikipediaFR)

・ユゴー『ノートル＝ダム・ド・パリ』

(1831)に描かれる中世のパリ

・ゾラ『獲物の分け前』(1872)、

『ナナ』(1879)などに見られる

19世紀後半のパリ→オスマン

のパリ改造の時期



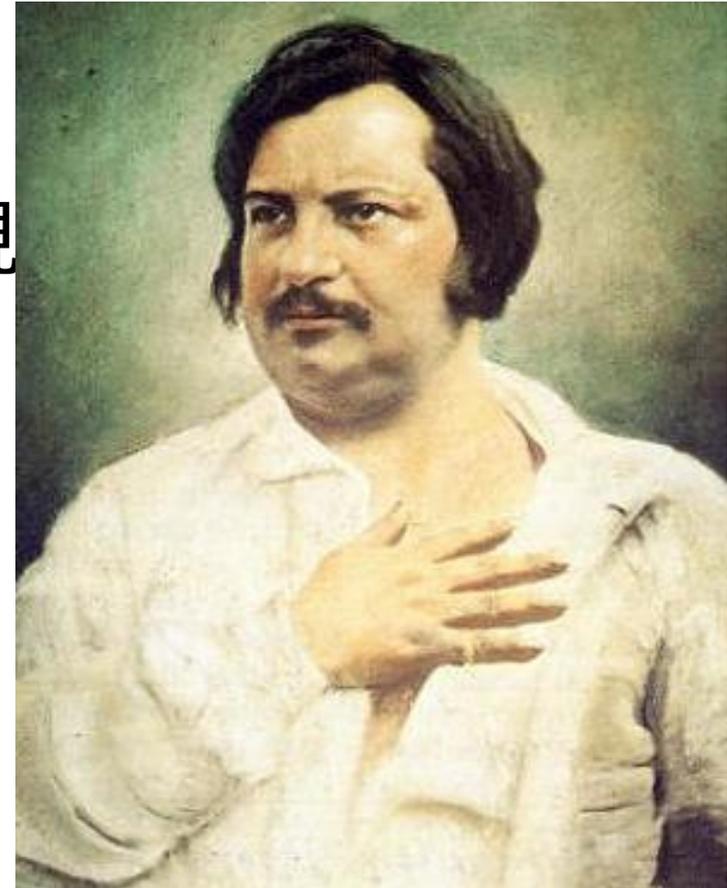
都市計画の代表的な推進者

- アンリ4世 (Henri IV, 1553-1610) 在位1589-1610
- ルイ14世 (Louis XIV, 1638-1715) 在位1643-1715
- ナポレオン1世 (Napoléon I, 1769-1821) 在位1804-1814
- ルイ18世 (Louis XVII, 1755-1824) 在位1814-1824
- ルイ=フィリップ1世 (Louis-Philippe Ier, 1773-1850) 在位1830-1848
ランビュトー (Rambuteau, 1781-1869) セーヌ県知事1833-1848
- ナポレオン3世 (Napoléon III, 1808-1873) 在位1852-1870
オスマン (Haussmann, 1809-1891) セーヌ県知事1853-1870

オノレ・ド・バルザック 『人間喜劇』の創造主

Balzac(1799-1850)

- ・近代小説の確立者
- ・19世紀社会の総体を表現
- ・代表作『ゴリオ爺さん』
『谷間の百合』 『幻滅』
『従妹ベット』
- ・小説の主題となるパリ
『鞠打つ猫の店』 他多数



パリを大きな文学テーマとして位置づけた最初の
小説家 — バルザック『人間喜劇』の序文より

『私生活情景』[...]『地方生活情景』[...]
それから『パリ生活情景』は、極端な善と極
端な悪が一堂に会する首都に特有な風俗に
刺激されて起こる常軌を逸したあらゆる物事
や、数々の悪癖と趣味についての場面を供
している。この三部門の個々の作品には、そ
れぞれのローカル・カラーがある。[...]私は
われらが美しき国のさまざまな地方について
わたしは読者が理解できるようにつとめた。

変貌するパリ — バルザック『鞠打つ猫の店』
澤田肇訳、『バルザック芸術／狂気小説選集①
絵画と狂気篇』水声社、2010、pp.11-12 .

(1811年ナポレオン帝政下の三月のある日の早朝)

サン＝ドゥニ街のなかほどで、プチ＝リオン街と
の角のすぐ近くに、一軒の貴重な家屋がつい最近まであった。歴史家たちがそれから類推して古のパリを容易に復元することができるという類のものである。[...]この由緒ある建造物の上には三角形の屋根がかぶせられていたが、そうした型の屋根はじきにパリではまったく見られなくなってしまおうであろう。[...] 実のところ、この十六世紀の富裕市民層の間で流行った建築の名残は、 [...]

消え去る過去の建築 バルザック『鞆打つ猫の店』



PARIS - RUE SAINT-DENIS

Paris. Vieilles maisons rue Saint-Denis. Vers 1835. ND-59 AP

変貌するパリ — バルザック『三十女』

翻訳出版なし、以下は澤田の仮訳

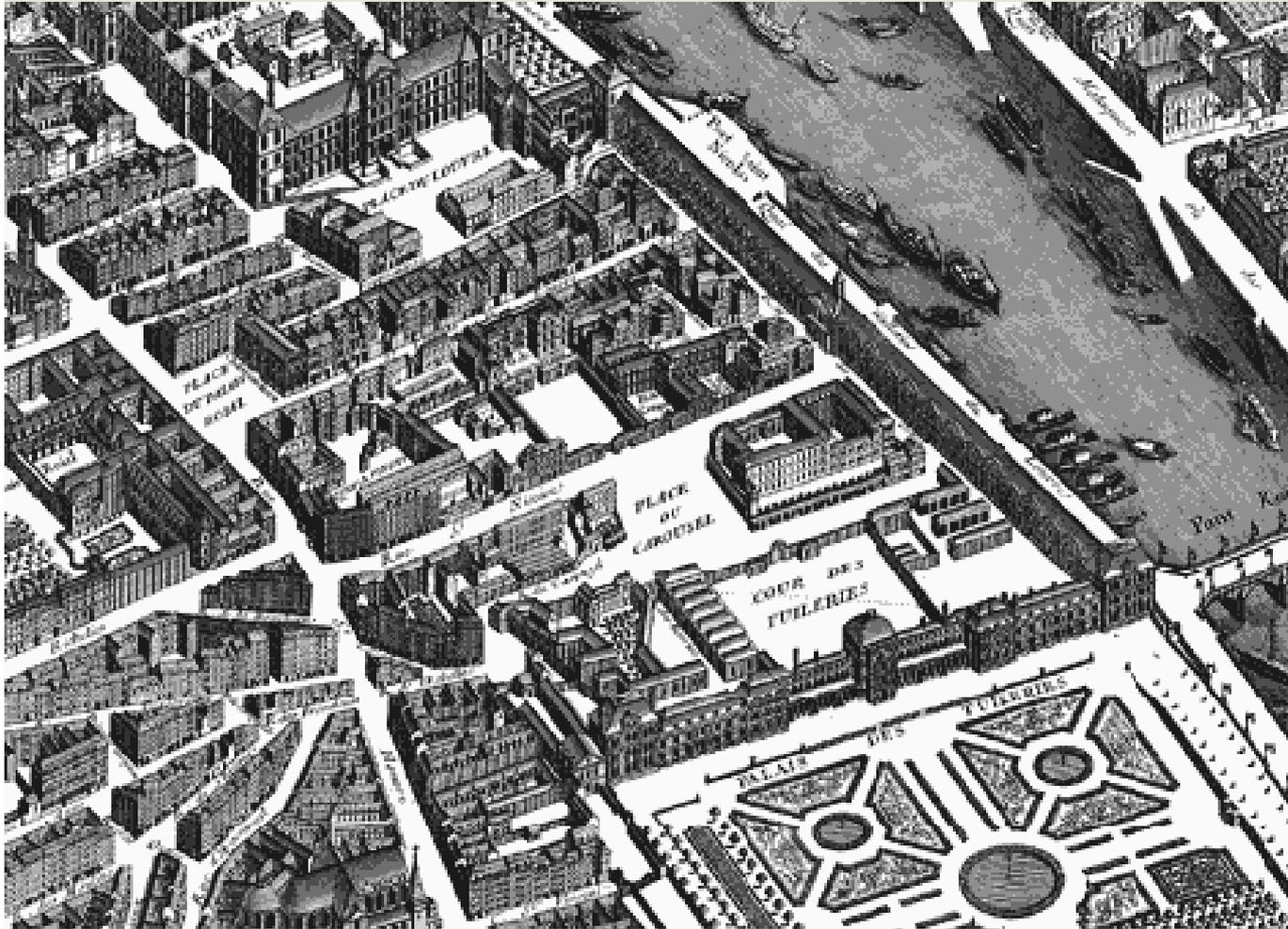
(1813年のパリ、テュイルリー宮殿に向かうジュリー)

正午前に元気のない二頭の馬につながれたお供付きの二輪馬車が、カスティリオーネ通りからリヴォリ通りに出てきて、フィヤンの遊歩道の中頃に新しく作られた門のところで止まっている何台もの馬車の後ろに止まった。[...]

「なんてみごとな行進でしょう」とジュリーは、父親の手を握りしめながら小声で言った。

その時カルーゼル広場で展開されていた絵のように壮大な光景は、何千人もの見物客から同じような歓声をあげさせていた。

テュルゴの地図による1734年のパリ
存在しない=リヴォリ通り、カルーゼルの
凱旋門、ルーヴルの北翼



ナポレオンの都市整備 シエレ『テュイルリー公園眺望』(1835) リヴォリ通り(1892年の写真)



PARIS - RUE DE RIVOLI

Paris 1er arr., la rue de Rivoli et l'hôtel Meurice. ND-1892B

変貌するパリ — バルザック『平役人』翻訳 出版なし、以下は澤田の仮訳

(1824年に過去を振り返る下級官吏のポワレ)

彼はパリで起こることなら何にでも興味を示し、日曜日ともなれば新しい建物の建設の進み具合を見て時間を過ごすのだった。[...] 大きな建物がなかなか終わらないことや、資材さもなければ資金の不足、はては建築家がぶつかるさまざまな困難を心配するのが常のことだった。彼はよくこう言うのだった「ルーヴル宮が瓦礫の中から出てくるのを見たんですよ、シャトレ広場ができあがるのを見たんですよ、花市場の河岸やあちこちのマルシェもね」

ナポレオンの都市整備



シャトレの城塞



シャトレ広場

勝利の泉水(1808年)とPont・シャンジュ橋
『シャトレ広場の泉水』(1818年頃)カルナヴァレ美術館



ナポレオンの都市整備 ポン＝デ＝ザール橋（1804年に完成）

「人に聞かれたくはない二言、三言を交わすには
パリで最適の場所」(1829年のパリ)

ヴォートランと
その手下

『浮かれ女盛衰記』



変貌するパリ — バルザック『フェラギュス』
西川祐子訳、『バルザック「人間喜劇」セレク
ション 第3巻』藤原書店、2002年、p.58.

(1819年のパリ、モーランクール暗殺未遂事件)

その頃、パリは建築熱が盛んであった。パリは怪物だが、怪物の中でもとくに偏執狂的な怪物である。この怪物はありとあらゆる妄想にとりつかれる。あるときは普請好きの殿様のように建てるは、建てるはの騒ぎ。ところがじきに鋸を打ちちゃって、兵隊好きになる。[...]さて当時は、誰もが、何かしら、建てては壊し、壊しては建てていた。一階、二階、三階と、腕木にわたした踏み板を連ねた、長い丸太の足場組みが立っていない通りはないくらいであった

王政復古期のパリ改造 ラ・ファイエット通り（1823）

旧市街を貫通する新しい直線道路

ヨーロッパ地区
の再開発：広場
から8本の街路
が広がる



Paris IXème arr., la rue La Fayette, à l'angle de la rue du Faubourg-Montmartre. LL-1851 Réserve

変貌するパリ — バルザック『浮かれ女盛衰記』

La faillite de Falleix forçait le baron d'aller à la Bourse ; mais il lui fut impossible de quitter la rue Saint-Lazare sans passer par la rue Taitbout ; il souffrait déjà d'être resté quelques heures sans Esther, il aurait voulu la garder à ses côtés. [...] Enchanté d'annoncer à *zon anche* sa translation de la rue Taitbout à la rue Saint-Georges, où elle serait dans *eine bedid balai*, [...] il marchait en jeune homme dans un rêve de jeune homme. Au détour de la rue des Trois-Frères, au milieu de son rêve et du pavé, le baron vit venir à lui Europe, la figure renversée. (SMC-6:p.593(32) Pléiade)

王政復古期のパリ改造 ヌーヴェル・アテーヌ地区から証券 取引所（1825）へ

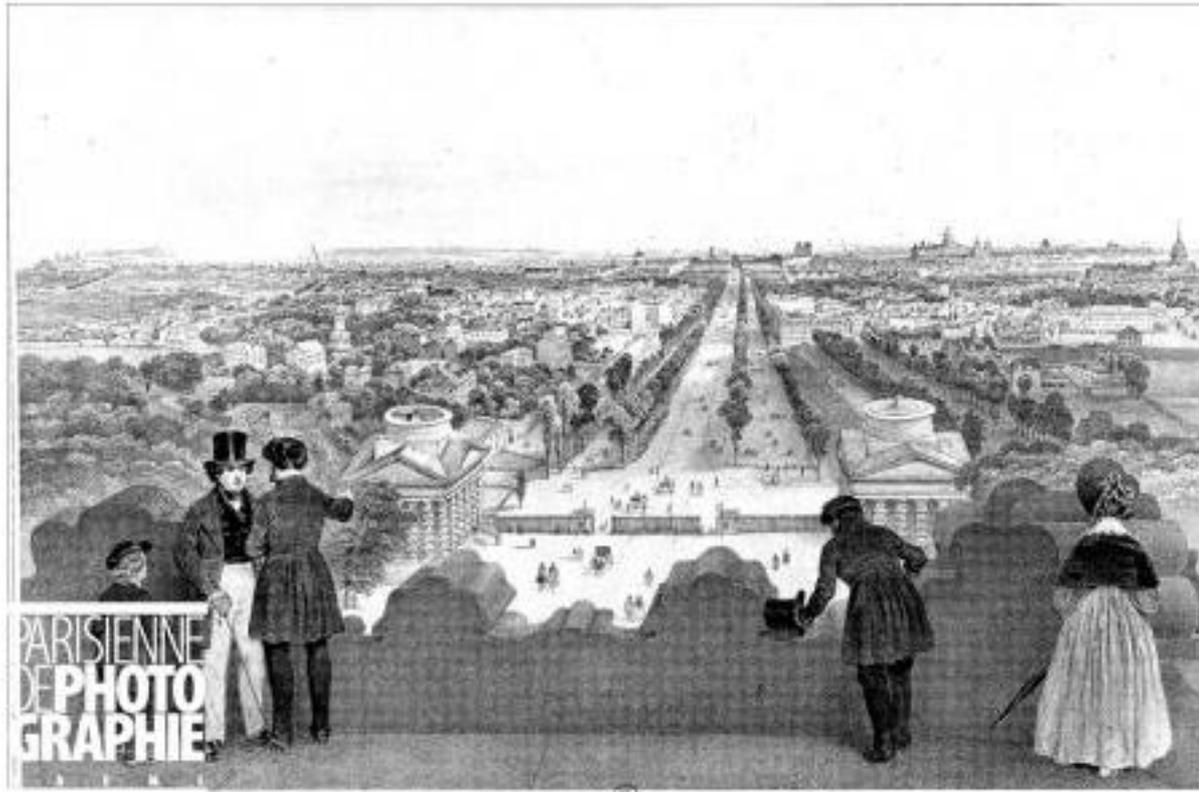
[新アテネ]
再開発地区：
ロマン主義世代の
人気住宅街
芸術家から裏社交
界の女性まで



PARIS - BOURSE

Paris, le Palais de la Bourse (IIème arr.). Lithographie de Charles Rivière, d'après une photo, vers 1860. RVB-05100

7月王政期の首都整備 エトワール ル広場の凱旋門の完成 (1836)



PARIS - PANORAMA

Vue sur la porte de Neuilly et les Champs-Élysées prise de l'Arc de Triomphe à Paris. Lithographie de J. Jacottet, 1840. B.N.

変貌するパリ — バルザック『幻滅』

Il (Lucien) allait perdu dans ses pensées, il allait devant lui, regardant les monuments de la place Louis XV. Il faisait beau. De belles voitures passaient incessamment sous ses yeux en se dirigeant vers la grande avenue des Champs-Élysées. Il suivit la foule des promeneurs et vit alors les trois ou quatre mille voitures qui, par une belle journée, affluent en cet endroit le dimanche, et improvisent un Longchamp. Etourdi par le luxe des chevaux, des toilettes et des livrées, il allait toujours, et arriva devant l'Arc-de-Triomphe commencé. [...] Des jeunes gens à cheval, parmi lesquels Lucien remarqua de Marsay et Rastignac, se joignirent à la calèche pour conduire les deux cousines au bois.

7月王政期の首都整備 ランビュトー通り (1839)

旧市街を貫通する新しい直線道路

レ・アル地区と
マレー地区を結
ぶ



PARIS - LA RUE RAMBUTEAU

Paris (IIIème et IVème ards). La rue Rambuteau à la hauteur de la rue des Archives. Vers 1900. ND-1743 Rés.

変貌するパリ — バルザック『従妹ベット』水野
亮訳、『バルザック全集 第十九巻』東京創元社、
1974年、pp.410-411.

(1844年頃で今日のサン＝ラザール駅西側の地区)
ユロ男爵夫人のこの種の最初の試みは、むかし
「小ポーランド」と呼ばれていた陰惨な場末町で行
われた。[...]ところが今では投機目あての建築屋
が、パリのこの一角の面目を一新することに、 [...] そんなわけ
でいまやパリのほうぼうの区では、裁
判所からの命令がないかぎり警官もうっかり足を
ふみ入れないような、みじめきわまる長屋をどしど
し取りこわし、そこに住んでいるうさんくさい人間を
追い払ってほっと息をついている。

変貌するパリ

パリらしい風景とオスマンの位置

- その変貌の足跡は、ルーヴル宮の建造の歴史と同じように、積み重ねの結果
- オスマンは根本的な変革者というより、近代化事業の総仕上げをした大胆な継承者
- 特別な位置にある都市が特別な風景を見せるという予断を抱かせる
- 世界の首都という神話の確立

風景の中の神話

光の都＝人類の灯＝ヨーロッパの首都

パリ賛美の言説：芸術文化と思想の中心地

二大推進者：バルザックとユゴー

Vous allez voir défiler les uns après les autres tous les gens de talent, petits et grands, artistes en herbe ou en gerbe, qui élèvent, à la gloire de la France, ce monument de tous les jours appelé l'Opéra, réunion de forces, de volontés, de génies qui ne se trouve qu'à Paris... (*Les Comédiens sans le savoir*, Pléiade, VII, 1158)

「あらゆる文明がそこに要約されてある」(『レ・ミゼラブル』 Folio, II, 166)